

平成 22 年 9 月 8 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中齋塾 東京フォーラム

平成 22 年 第 8 回講話

足の裏に「有難う」

おはようございます。ご無沙汰をしておりました。

今朝二度目の風呂に入った時に、最近、生活習慣が変わったな、と感じました。風呂の中で足の裏を、「ご苦労さんだったね・どうも有難う」と揉んでいるのです。今朝もすでに 5 千歩歩きましたので、足の裏に負担がきて固くなっています。ですから足の裏のこの部分は腎臓だとか、この部分は目だとか思いながら、揉みほぐすのです。

生活習慣が夏休みの間に変わりました。夏休み以前は一日 1 万歩を目指して歩いていました。そうしましたら、私の兄が「1 万歩くらいならいいが、2 万歩は止めておきなさい」と言うのです。2 万歩歩くと、腰や背中が痛くなるということです。人体実験してみようと思って 2 万歩歩きましたら、大して影響がなかった。2 万 5 千歩から 2 万 6 千歩を、夏休みに赤城山で歩いてみました。そうしたら確実に身体に影響が出ました。2 万 5 千歩は赤城山だけにしておこうと思いました。揉みほぐす時間が山の中ではたっぷりありますから。

9 月に入ったら、とても 2 万歩以上は歩く時間が厳しいし、身体にも影響が出ますから、9 月以降は 1 万 5 千歩に目標を切り替えました。歩くと、足の裏のこの部分とこの部分が固くなるのだというのが分ります。本を読むと、足湯で足を柔らかくして温めてから揉みほぐすように書いてあったので、その通りにしたら非常に効果がありました。

足の裏を揉みほぐし「どうも有難う」と言ったら、非常にすっきりしました。有難うという対象が一つ増えました。ということで、この夏休み生活習慣が変わったというご紹介をしました。

質問

では、いつもの質問を致します。

昨日一日、嘘をつかなかった方？

(・・・沢山手が挙がる)

ひと夏、嘘をつかなかった方？

(・・・あまり手が拳がらない)

有難うございます。嘘をつかなかったかどうか毎日チェックしていると、ひと夏であろうが、半年であろうが、1年であろうが、ずっと手が拳がります。私も毎日必ずチェックして、それで安心して寝るという生活習慣にしています。

昨日一日嘘をつかなかったかという聞き方を、前回のフォーラムから今回までの間というように期間を延ばしてお聞きしたいと思っておりますが、まだ生活習慣にしておられる方が少ないようですので、

ここ1週間、嘘をつかなかった方？

(・・・少し手が拳がる)

意識的に嘘をつくものとリップサービスと、嘘の内容は色々ありますので、全部ひっくり返して「嘘」で良いと思います。

では、次の質問です。

昨日は良い日だったと思える方？

(・・・まあまあ、手が拳がる)

良いことと悪いことを比較して、悪い日だったというのではなくて、悪いことが仮に90%であっても、良いことが少しでもあればそれを拡大解釈して、良かったなと思って寝る。そうすると翌日良い効果が出ると信じて、良い日だったと思って寝ると良い。

ひと夏、良い夏だったなと思える方？

これは漠然と考えれば良いですから、良い思い出だけ残して、良い夏だったなと思えれば良いでしょう。

もう一つ、民主党の代表選挙についてお聞きします。

私が不思議なのは、なぜ小沢さんが代表選に立候補したのか。小沢さんが総理大臣になったならば、刑事被告人でありながら総理大臣になるわけです。そういうことを日本の国全体の視野で小沢さんは考えないのでしょうか。自分個人の私利私欲だけで代表選に出たのではないかと思います。小沢さんが代表選に出たことの良し悪しをお聞きします。

小沢さんが代表選に出たことは、良いと思う方はどれくらいおられますか？

代表選に出たことは、良くないと思われる方はどれくらいおられますか？

代表選に出たことは良いと思う方が多かった。のちほどお二人ずつに意見をお聞きしたいと思えます。

もう一つお聞きします。先日私の知りあいの会計事務所の社長さんとお話をしたのですが、その方曰く、「私は1ヶ月間まるまるお休みを貰ったら、どう過ごしてよいか分からない。しかも深澤さんのように山の中に入ってしまったら、なお更です。今のところは仕事が山のようにあるから、それに追われて一日が終わるけれども、何も予定がない日が1ヶ月もあったなら、どうやって過ごしたらよいのだろう・・・」ということでした。

そこで質問です。

1ヶ月間お休みを戴いたら、自分の好きなように使いこなすという人？

1ヶ月間お休みを戴いたら、どうしてよいか分からないという方はおられますか？

なぜそんなことを聞いたかと申しますと、年代によって1ヶ月間の使い方がかなり変わると思います。人によって時間の流れはまるで違いますし、使い方が全然違います。それを時々思い出して戴くとよいと思います。

今日の論語

では、解説を致します。本日の論語は雍也第六 1~4 です。

【一】 子曰く、雍や南面せしむべしと。仲弓 子桑伯子を問う。子曰く、可なり、簡
なればなりと。仲弓曰く、敬に居て簡を行ひ、以て其の民に臨まば、亦可ならずや。
簡に居て簡を行わば、乃ち大簡なること無からんやと。子曰く、雍の言然りと。

南面というのは、人の上に立つ人間は南を向いて座り政を行うわけです。

孔子が、「仲弓という人間は南面に向って座っても良い人物である」と言われた。

仲弓はそれを心の中に留めて、自分に似ている「子桑伯子という人はどうでしょうか」と孔子に聞きました。

孔子が「まあ大まかで、こせこせしない人だから良いだろう」と言いました。

仲弓は、自分は自分だという気持ちがかかなりあって、「敬う気持ちを常に忘れないで、大まかな行いをするのであれば民は喜ぶことでしょうか、大雑把な人間が大雑把に物事を片付けていったら、しまりがなくなりませんか」と聞きました。

孔子が、「お前の言う通りだ」と答えました。

人の上に立つ人物という視点で見ると、今、日本の国を代表する総理大臣を決めようという代表選が進んでいます。小沢さんは、そんなことをしなくても自然と周りから推されてトップになっていくのが好きみたいで、色々な水面下工作をして、勝つ目算が立った時

に、選挙に出ると意思表示をしてきました。日本民族は、自分がやると手を挙げて周りがそれに付いて行くという形よりも、周りから推されて自然と上に出てくるのが「南面せしむべし」という言葉に当てはまると思います。

今の日本の国の中で、或いは自分の周りや所属する組織の中で「南面せしむべし」に値する人物はいるのかなと思って眺めて見ると良いと思います。会社の後継者という点で考えても、人の上に立てる人物かどうか、自分の身内だからという理由で、無理やり南面に座らせる傾向がありはしないかなと感じます。

会社の後継者について少し余分なことを申します。社員の中でこの人は良いなという人物がいたとします。その社員がどんどん上に上がって行って、その人を社長に据えた場合、意外と会社の中が治まらない場合が多い。大企業はとことん方式ですから違いますが、中小・中堅企業の場合、創業者が二代目にバトンタッチをしようとする時は、やはり身内になりますね。身内に渡した場合であれば、たとえ失敗しても、出来の悪い息子が・・・とか、出来の悪い婿が・・・仕方がないと思えます。自分の創った会社とその時点で社会の役に立っていたのであれば、たとえ潰れても、それほど体制に影響はないと思えるのではないかなと感じます。

【二】 哀公問う、弟子孰か学を好むと為すと。孔子对えて曰く、顔回という者有り、
学を好めり。怒りを遷さず。過を貳びせず。不幸短命にして死せり。今や則ち亡し。
未だ学を好む者を聞かざるなりと。

魯の国の君主である哀公が、孔子に聞きました。

「お弟子さんたちの中で、誰が学を好みますか」

孔子が答えました。

「顔回という者がおりましたが、不幸にして早死にをしまいました。顔回は学を好めりと明確に言えるし、仮に怒りがあっても当り散らすようなことはない。同じ過ちを二度としない。そういう人物であったが、残念ながら今はいません。顔回のあとは、天下に学を好めりという者のうわさ話はまるで聞こえてきません」

今の時代に置き換えて考えてみましょう。一つの国のトップが、誰か大先生に「登用できる人材はいないか」と聞ける。政治家の公募などしないで、お弟子さんの中に誰かいませんかと聞けるような大先生がいれば良いですね。

今の政治家は松下政経塾の出身者が非常に多くなりました。しかし政治家になりたいの

であって、自民党の枠がなかったから民主党に行くというように、政党の渡り鳥をする人たちが結構出てきています。ですから松下幸之助さんが政経塾を創った当初の思い通りには、現在は進んでいないなと思っています。志は非常に良かったけれども、残念ながら松下幸之助さんが政経塾を創られたのは80歳を過ぎてからでしたから、生きていれば多少違った動きになるのだらうと思います。

しかし松下政経塾のような、お弟子さんを抱える塾のようなものがあちこちで少しずつ見えてきているので、あと10年、15年のうちには、日本も捨てたものではないと思えるようになる気がします。ということは日本がこれから駄目になるという前提で、日本が再興する時に人材が溢れてくると思っています。落ちている最中は人材も生まれません。どうにもならない状況になって、日本が破綻するような真っ暗闇になって初めて、人材があちこちから湧いて来る。明治維新はそういう感じだったと思いますので、同じ周期だらうと思います。日本は60年から70年周期で短い成功と短い没落を繰り返しているという説がありますが、そういう見方もあると思います。短期間で見れば、そういう動きがこれから日本は起きると思っています。

【三】子華 齊に使う。冉子 其の母の為に粟を請う。子曰く、之に釜を与えよと。益さんことを請う。曰く、之に庾を与えよと。冉子 之に粟五秉を与う。子曰く、赤の齊に適くや、肥馬に乗り、輕裘を衣たり。吾 之を聞く、君子は急を周いて、富めるに継がずと。原思 之が宰と為る。之に粟九百を与う。辞す。子曰く、毋かれ。以て爾の隣里郷党に与えんかと。

孔子の家の出納を司るのが冉子（冉求）です。

子華（公西赤）という弟子が、孔子に言われて齊に使いに行きました。冉子が「子華の留守を守る母親に粟をあげても良いでしょうか」と孔子に聞きました。

孔子が「釜をあげなさい」と言いました。

いくらなんでも少なすぎるので、「もう少し増やしてあげて下さい」と言ったところ、孔子が「庾をあげよう」と言いました。

冉子は孔子はけちだなと思ったのでしょう、孔子に黙って粟を五秉をあげました。

この量がよく分かりません。色々な解説本によって違いますが、分りやすいのは洪沢栄一さんが荻生徂徠の言として書いていますので、それを申します。釜は中国では六斗四升、日本の五升七合余りです。庾は十六斗で、日本の一斗四升三合余り。五秉は日本で言うところ七石一斗八升五合余りだそうです。

ちなみに貝塚先生の解説では、五秉は日本の十四石となっていますが、これなら十分あげたと思うような量だと思います。

それを知って孔子が言いました。

「子華が使いに出る時に、良い馬に乗って良い皮衣を着て威風堂々と出かけて行ったと聞いている。君子は困っている者は助けるけれども、金持ちには余分に出さないものだ。子華の家は金持ちだから、余分にあげることはない」

お金にまみれて生活しているような人たちに、更にお金を余分にあげるなど私はしないよと答えたわけです。

原思も孔子の弟子です。

原思が孔子の領地の責任者になった。孔子はお給料として粟九百（貝塚先生は百石と書いています）を与えた。すると原思は、多すぎると辞退しました。

孔子は「何を断る者があるか。お前は貧乏しているから沢山あげるのだよ。それでも多すぎると思うのであれば、隣近所の人たちに分けてやればよい」と言いました。

孔子は金持ちの子華とは対照的に、貧しい原思には十分な給与を与えようとしたわけです。

ちなみに渋沢栄一さんの解説では、隣近所というのは5軒の家が隣。25の家は里。500の家を党、12500の家を郷とあります。

【四】 子 仲 弓 を 謂 いて 曰 く、 犁 牛 の 子、 騂 く して 且 つ 角 あ ら ば、 用 う る 事 勿 かん と 欲 す と 雖 も、 山 川 其 れ 諸 れ を 舎 て ん や と。

孔子が仲弓を批評しました。

犁牛というのは、毛の色がまだらで、やせ細ってあまり役にも立たない牛です。仲弓が賤しい身分の出であったことを象徴しています。

犁牛の子の中に、赤毛（周の時代の人には赤色を高貴な色として尊重しています）で立派な角を持っている子牛がいれば、神様に差し出すいけにえにしたいと思う。仮に担当者が、親牛が悪いので止めておこうと思ったとしても、山や川の神様はそのような子牛であれば受け入れるであろう。

仲弓は非常に徳があるし、行いが素晴らしい。人の上に立つ資格がある人物であるから、放っておいても世間は必ず見出して彼を登用するであろう、と孔子が言っています。

今風に考えれば、どうにもならない駄目な親であっても、子供が優秀であれば良いポストに就いていくということです。ポスト争いは盛んにするけれども、この人は素晴らしいか

らポストに就けようという人物が周りにいますでしょうか。事業仕分けで目立った大臣は、犁牛の子かどうかは分かりませんが、果たしてその人材発掘は良いのかなと感じます。

衆議院の元副議長の渡部恒三さんが、最近よくご託宣を言っています。ご本人は水戸黄門を自称しておられるようですが、聞いていると確かに良いことを言っておられます。日本の国が悪化していく今の現状は、かつてイギリスが大英帝国が没落して普通の国になっていった時の状況と酷似していると言っていました。私はイギリスはあまり気にしないでいましたが、没落する時の条件というのはイギリスを見ればよいのだなと感じています。今、それを調べています。はっきり分かる事は頹廢、汚職・賄賂が蔓延して一般の人は享樂にふけることばかりに眼を奪われて、一所懸命真面目に努力して仕事をしようという氣風がどんどんなくなってゆく。そこらへんは確かに酷似していると感じます。

何度も読み返したくなる本はありますか？

今日ご紹介するのは、木内信胤先生の書かれた『日本よ、こう進め！』という本です。1988年初版発行ですから、大分昔の本です。御本人は本を書く時に、目次を書くのが好きだったそうです。大きなテーマを頭において、まず目次を作る。「目次が出来たら、後はもう出来たようなものだ」と言われていたのを思い出します。中を見ると、強く言いたいことが大きな活字になっています。話の展開も、最後に残ったエクスだけを本に書くのが普通ですが、木内先生は自分の考えている順番通りに、思ったことをずっと書いておられる。これは本を書く時、読む時の参考になるかと思います。

私自身は本を読む時に、書いている方の息遣いを想像しながら読みます。読みたいと思う本は、二回、三回繰り返して読むのが常です。そういう本を沢山お持ちであれば良いと思います。そういう本は5年後10年後に読んでみても、えっ！と思うような違う視点が見えてきます。離しがたい本と簡単に手離せる本と、分ければ良いと思います。私も今、自分の持っている本を、処分する本と手元において置きたい本とに区分けしています。そうすると結構要らない本がありますね。半分くらい読んで、もうこれはいいやと投げたしまう本もあります。作家が書き飛ばしをしたような本は、読んでいても面白くないから、やはり処分する本の部類に入ってしまう。

皆さんは何度も何度も読み返したくなるような本はありますか？

元社長と言われないように・・・

今朝方、小雨の中、荒川の土手を傘もささないでタッタカタッタカ歩きました。普段は自転車やウォーキングをする人で溢れているのですが、さすがに雨の中はあまり人がいませんでした。橋の下にホームレスが雨宿りをしていました。ダンボールの家も作ってあって、人数を数えてみると16人いました。地下鉄の通路で寝ているホームレスはよく見ましたが、こんなにもホームレスが増えたのかと感じました。

しかし今、ホームレスの人たちに生活保護を申請させるNPO法人が沢山あって、あちこちで彼らの生活保護申請のお手伝いをしています。生活保護を申請しに来たホームレスは100%受理するように総務省から命令が来ていますから、役所は受け容れなければならない。結果として大阪府は、予算の20%が生活保護費で埋められたそうです。全国の自治体も皆、同じような状況です。下手をすると小さな自治体では予算の5割くらいを占めるようになってしまいます。生活保護費を貰っている方が、最低賃金で一所懸命働くより多めにお金が貰えるのです。それが今の日本の現状です。尚且つそれがどんどん増えている。

ホームレスの中には、元社長さんが沢山いるそうです。そうならないように、人を信用する際は十分に気をつけた方がよろしいと思います。きな臭い話が出た瞬間に、即断即決・果敢即決すべきだと思います。会社も、問題が起きたら即座に処理をして、新しい体制を作る。時間をかければかけるほど、怪我が酷くなります。

これから日本の国はどんどん落ちてゆく時ですから、色々な問題が起きてくると思います。自分の身の周りの貴重なものはあるかないか、人間も中身が変質していないかどうか、自分自身の持ち物の棚卸しも必要ですし、お付き合いしている人の棚卸しも必要ですし、自分自身の身体・中身の棚卸しも必要だと思っています。

本日の講話はこれで終了に致します。有難うございました。